

# 西川ゴム工業株式会社 QC 検定の導入・活用について

西川ゴム工業株式会社

専務取締役 児玉 照三

## 1. はじめに

西川ゴム工業株式会社は1934年（昭和9年）に広島で創業を開始したゴムメーカーです。創業当初から発泡技術を活かしたスポンジゴムにこだわりを持ち、戦後その技術を活かして自動車用シール業界へ進出しました。

そこでドイツの哲学者ニーチェによる言葉“己の立てる所を深く掘れ そこに必ず泉あらん”を基本行動指針とし、半世紀もの間、当社の強みであるフォーム（発泡）技術とシール（密封）技術を掘り下げてきた結果、国内全自動車メーカー様とお取引をさせていただくまでに成長、現在ではそれらの技術を生かし、化粧用のスポンジパフや住宅の外壁の隙間を密封するガスケット等、他業界へも進出しています。

この基本行動指針、そして自己の専門分野を掘り下げていくというDNAは現在の社員へも脈々と受け継がれ、現在は社員一丸となり、世界中のお客様に「快適」をお届けする企業グループを目指し活動を行っています。

## 2. 企業概要

- |           |   |
|-----------|---|
| (1) 商号    | 西川ゴム工業株式会社<br>(NISHIKAWA RUBBER CO., LTD.)                                    |
| (2) 本社所在地 | 広島市西区三篠町二丁目2番8号   |
| (3) 創業    | 1934年（昭和9年）   |
| (4) 設立    | 1949年（昭和24年）  |
| (5) 代表者   | 代表取締役社長 西川 正洋   |
| (6) 資本金   | 33億6,448万円  |
| (7) 社員数   | 連結：4,500名<br>単体：1,300名（2012年3月末時点）  |
| (8) 上場区分  | 東京証券取引所二部上場   |
| (9) 売上高   | 603億円（2011年度連結実績）   |
| (10) 国内拠点 | ・工場 広島県4拠点<br>・営業所 全国7拠点<br>・支店 英国1拠点   |
| (11) 海外拠点 | 7カ国10拠点<br>（米国、メキシコ、中国、タイ、インド、インドネシア、英国）                                      |
| (12) URL  | <a href="http://www.nishikawa-rbr.co.jp/">http://www.nishikawa-rbr.co.jp/</a> |



【本社社屋】

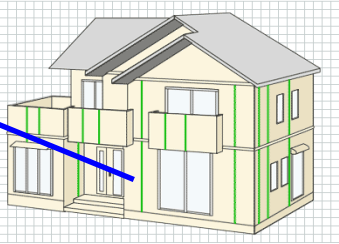
(13) 事業内容 自動車用ドアシール材および産業資材製品の設計・開発、製造、販売

《自動車用ドアシール材の主力製品》



【ドアウェザーストリップ】  
(ドアや窓周りとボディの隙間から風、雨、音等の侵入を防ぎ快適なドライビング空間確保の為に欠かせないシール部品)

《産業資材製品の主力製品》



【住宅用外壁目地ガスケット】

【化粧用スポンジパフ】

### 3. QC 検定導入の経緯

当社では、「正道・和・独創・安全」という社是に沿った考えと、社会の高度化・技術革新に即応できる高度な職務知識と旺盛な意欲・実行力を兼備した人材の育成、ならびにその人材の最適・最大活用を図ることを目的とし、「能力開発・活用制度」を定めています。その中で教育体系として「提案活動」、「小集団活動」等を通して改善活動を推進するよう位置付けています。

そして、それらの活動の推進と更なる質向上を図るには、社員一人ひとりの品質に関する知識が必要不可欠となります。

そのためこれまでも教育体系に基づき、新入社員研修や職掌別教育において品質管理教育を実施していましたが、各個人の習得度合いにばらつきが見られ、ひいてはそれが全社的な諸改善活動レベル向上を阻害していました。

そこでより客観的、公平に知識習得度合いを測れる QC 検定を導入し、品質に関する基礎的知識の整理と再習得を図り、諸改善活動のレベルアップを図ることとしました。

QC 検定を導入したのは 2008 年 3 月の第 5 回目からで当初は“取得推奨”という形でのスタートでしたが、2010 年からは社内教育体系を見直し、技能職（現場作業員）から管理職まで、階層に応じて QC 検定 3 級または 4 級取得を“必須”の位置付けとし活動を実施しています。(表 1 参照)

種類 階層	諸改善活動			QC 検定 必須取得級
	提案活動	小集団活動	改善活動	
管理職		PTA	全員	3 級以上
上級職		世話人		
中級職	全員	リーダー		4 級以上
初級職		メンバー		
技能職				

表 1 階層別諸改善活動体系&QC 検定必須取得級

#### 4. QC 検定取得に向けての取組みと取得者状況

当社の累積合格者数は、取得推奨を始める前に取得した者も含め、現在 1,454 名（重複取得有）となっています。

導入時から受験費用は会社負担とし、基本的には自己啓発による自己学習を中心としながら各工場や職場毎で個別勉強会を実施する等の活動も実施し、取得推進を図ってきました。

その後、前述の通り 2010 年度から必須取得の位置付けとしたことにより、2011 年度は震災の影響により不参加となりましたが、受験を再開した 2012 年度以降も順調に取得者数は増加してきています。（図 1 参照）

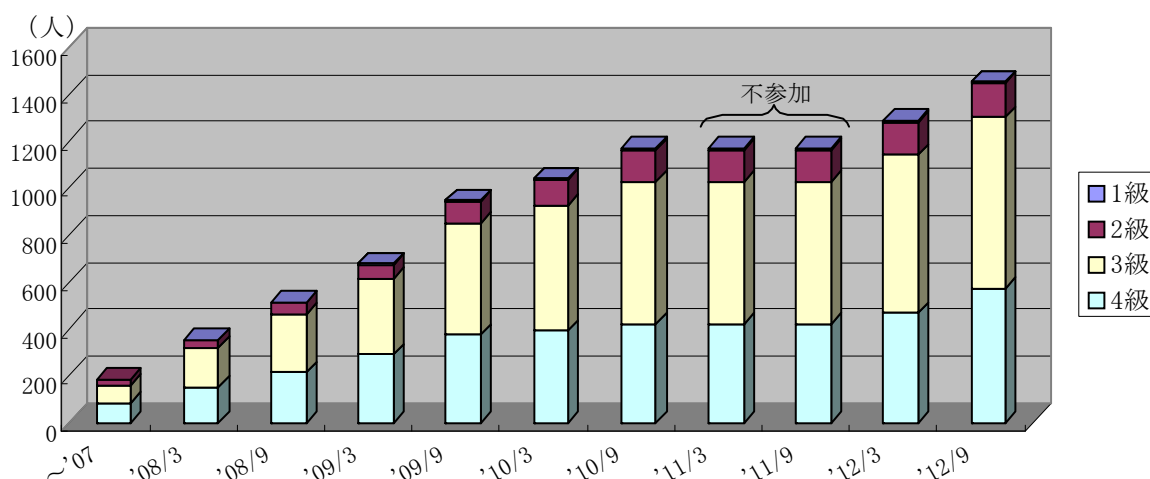


図1 QC検定 累積合格者数推移

2012 年からは、複数回受験しても不合格の者が見受けられたため、その対策として以下の内容にて 3 級取得のための研修会を開催し、取得率向上を図りました。また 2012 年後半には相対的に取得率の低かった生産現場の監督職を対象に同様の研修会を実施してきました。

### 《研修会 概要》

1. 対象者 QC 検定 3 級受検予定者
2. 参加人数 40 名程度
3. 実施日 操業日以外（参加者には研修手当支給）
4. 実施場所 自社研修施設
5. 研修時間 7 時間
6. 研修講師 社内インストラクター
7. 研修内容
  - (1) QC 検定とは
  - (2) QC ストーリー, QC 七つ道具
  - (3) 出題ポイント
  - (4) 文章問題対策
  - (5) 計算問題対策

QC7つ道具の出題頻度が高い

QC7つ道具の出題状況 (2009年~2011年) 過去5年間の出題総額をみて、新QC7の項目より

電卓の使い方  $\sum x_i^2$  ( $\sum x_i$ )<sup>2</sup> の求め方

- メモリーの使用法

試験では  $\sum x_i^2$  ( $\sum x_i$ )<sup>2</sup> を計算しなければなりません。

$\sum x_i^2$  の求め方

- 5つのデータ 6.2 5.7 6.1 6.3 6.0(mm)

6.2 × 6.2 M+ 5.7 × 5.7 M+ 6.1 × 6.1 M+ 6.3 × 6.3 M+ 6.0 × 6.0 M+ = 183.83

38.44 32.49 37.21 39.69

R-CM MRC 38.44+32.49+37.21+39.69+36 = 183.83

電卓によっては MRC MR RM さまざまなボタンあり

その結果、全社員の取得率は約 70%で、総合職は 90%以上、監督職は 80%以上となっています。なお今後の課題としては、未だ取得率が 50%に満たない技能職に対して対策を実施し、全社員の取得率向上を図っていきます。(図 2 参照)

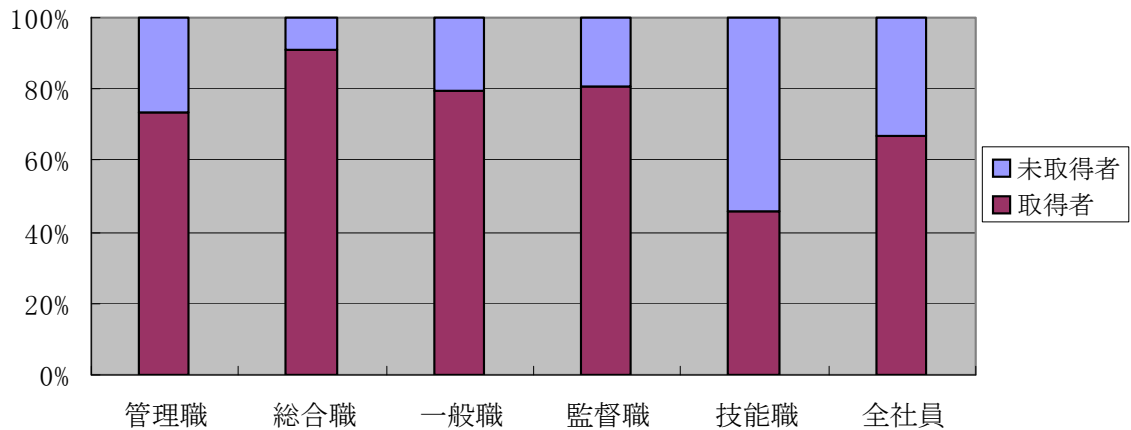


図2 必須級取得者割合

## 5. 合格者の声

現在当社では4名の1級取得者がおり、2008年3月に初めての1級合格者が出た際には社内報でも取り上げ、QC検定取得推進のためのPRを実施しましたので、その記事をご紹介します。

### QC検定1級合格！

「三度目の正直」

この言葉を胸にQC検定1級に挑みました。

大学で経営工学を専攻していた私は、学生時代にQC検定を知り、2級を取得しておりました。ただ、学生最後（2007年3月）と新入社員工場実習の時（2007年9月）に受検した1級には到底歯が立たず悔しい思いをしました。それは単に難易度が上がるだけでなく、2級と1級の試験形態の違いにありました。というのも1級には“論文”があるのです。例えば、「小集団活動での目標はいかにして決めるのが良いか？」や「品質は工程で作りこむと品質で工程を管理するを自身の経験を踏まえ意味を記述せよ」といった職場経験が必要な問題が出題されます。参考書や専門書で勉強すれば、品質管理の手法や実践に関する問題は解けるのですが、品質管理の視点で仕事を経験したことがなかったために、採点者の納得する文章が書けなかったのだと思っています。

その原因が分かっていたので、「落ちても次がある」と思っていた過去二回の試験とは違い、今回は「合格しないといけない」と自分の中で意識を変え、日常業務と受検対策を行いました。具体的には、新製品展開におけるSQCのよりよい活用方法を考えたり、品質保証部の主管業務である製品評価会・工程点検で工場・営業技術部その他関連部門の方々の意見を理解する事やリーダーシップのとり方、得意先提出書類の意義などをじっくり考え、理解することに専念してきたつもりです。

その結果、受検対策そのものに掛ける時間は少なくなりましたが、通常業務で体験した事が、今回の論文に活かたのではないかとと思っています。

最後に、QC検定1級は「社内で発生するさまざまな問題に対して、品質管理の側面からどのようにすれば解決や改善できるかを把握しており、それらを自分もしくは自分が主導していくことが期待されるレベル」と位置づけられておりますので、会得した知識や経験をより一層業務に還元できるよう努力していきます。またそれがご支援いただいた方々への恩返しだと思っています。

最後に、受検に際して支援していただいた関係者の方々に感謝いたします。

西川ゴム工業(株) 品質保証部員 記

## 6. QC 検定に期待すること

---

当社が今後グローバル競争の中で生き残っていくためには、コア技術を掘り下げ、進化させていかなければなりません。QC 検定はそのためのベースとなる知識の整理と習得に有用であり、また求められる能力に応じてレベル分けがされており、各自の段階的な能力向上にも寄与し得るものであると考えております。

当社では企業全体の改善力向上のためにも、引き続き積極的に QC 検定取得を推進していく考えですので、学生の方を含めて多数の方が QC 検定取得を目指すよう、今後更なる QC 検定の社会的認知度向上を期待いたします。

## 7. 学生に期待すること

---

QC 検定において習得できる知識、特に 4 級の「企業活動の基本」で問われる「ほうれんそう（報告、連絡、相談）」、「5S」、「5W1H」や 3 級で問われる「QC 的ものの見方・考え方」、「管理と改善のすすめ方」等は、将来ものづくりに携わる方だけではなく、社会で仕事をする上での基礎的知識であり、誰にとっても非常に有用な知識であると考えています。

そのため、QC 検定を取得されておられる方は会社で働く上での基礎的な知識を有しておられると判断でき、採用選考時においても他者との差別化に繋がると考えています。

また、QC 的なものの見方・考え方、管理と改善の進め方等は、仕事をする上だけでなく、日常生活に起こる問題の解決や自らの人生における目標達成のプロセスにおいても活用できるものです。

是非学生の皆様には自らのレベルアップと社会人としてより良いスタートを切るため、在学中から QC 検定にチャレンジしていただくことを期待いたします。

以上